

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 令和2年度第3回会議
開催日時	令和3年2月8日（月）
開催場所	書面開催
出席者	委員：鈴木委員、石井委員、多々良委員、近辻委員、都築委員、長崎委員、廣瀬委員
議題	<p>1 協議事項 天神社の総合調査について</p> <p>2 報告事項 (1) 下野谷遺跡の保存・活用について (2) 下野谷遺跡の整備について (3) 文化財事業実施報告 ・埋蔵文化財 ・その他の文化財事業等</p>
会議資料の名称	<p>資料1 天神社の総合調査について</p> <p>資料2-1 国史跡下野谷遺跡の追加指定の答申について</p> <p>資料2-2 国史跡下野谷遺跡整備工事（1A期）・実施設計（1B概要）について</p> <p>資料3-1 埋蔵文化財調査一覧</p> <p>資料3-2 埋蔵文化財調査地点</p> <p>資料4 文化財事業一覧</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発信内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>1 協議事項 天神社の総合調査について</p> <p>○鈴木会長：(1)表紙についての意見</p> <p style="padding-left: 2em;">① 報告書の書名については、「天神社」の神社名は一般的な神社名なので、「西東京市下保谷」というような地名を小さい文字でも加えるとよい。</p>	

(その一) と表紙に記載があるが、続編の見通しによって有無を判断するべき。

② 編集名については、「天神社総合調査会議編」ということでよい。

③ デザインについては、白ベースでよい。

(2) 前文についての意見

「刊行にあたって」の執筆は、教育委員長が適任である。

(3) 本文についての意見

第1章について、調査開始年及び調査期間を記した方がよい。

第2章について、『蓮見家文書目録』によると、元禄2年、寛政5年(未見)、天保2、7年(いずれも未見)、明治2年の村絵図があるため、画像があるなら掲載する方がよい。

「鎮守の森」に関して、宅地化、市街化が進んだ郊外で、鎮守の森は武蔵野の風物を保っている。したがって、地域の歴史文化の証であり、関連文化財群の拠点として位置づけることができる。

神社境内は、開放的な緑地なので、市民の憩いや、安らぎの場として活かすことができる。

境内の空き地は、地震などの災害時に、周辺の住民にとって一時的な避難場所になりうるので、防災の観点からも重視したい場所である。

第3章について、一部修正をしたい箇所がある。除かれている村絵図についても検討をお願いする。

第4章について、ストーリー図は興味深いので、併せて現在の下保谷の地図上で、関連文化財群のネットワークが描けるとよい。そのような図があれば、場と風物のつながりが体感できる。

記名について、「天神社総合調査会議」とあるが、「文化財係」とする方法もある。

(4) その他についての意見

① カラーページについては、三十番神堂、三十番神像、稻荷神像、菅原道真像、龍の鰻絵がよい。

② 参考文献

西東京市に関する文献は割愛した。以下の年号、西暦を揃えてほしい。

「西東京市の神社建築一本堂と拝殿」(『日本女子大学紀要家政学部第58号』所収)、鈴木賢次、2011年3月

『社殿Ⅰ 日本建築史基礎資料集成一』稲垣栄三編、平成10年、中央公論美術出版

『社殿Ⅱ 日本建築史基礎資料集成二』稲垣栄三編、昭和47年、中央公論美術出版

『社殿Ⅲ 日本建築史基礎資料集成3』大河直躬編、昭和56年、中央公論美術出版

『日本の神々と仏』岩井宏實、2002(平成14)年2月、青春出版社

『古建築の細部意匠』近藤豊、昭和49年5月、大河出版

『鎮守の森』宮脇昭、平成19年5月、新潮社

『伊豆長八』結城素明、昭和13年3月、芸艸堂

『消えゆく左官職人の技 鰻絵』、藤田洋三1996年12月、小学館

○多々良委員：本文についての意見

第2章について、11頁における、鎮守の森の役割についての部分に「森の持つCO₂の吸収とCO₂の供給」と「都会人の心のオアシスとしての価値」をつけ加えたい。

第4章について、63頁の「小樽村に習い」は、「小樽村に倣い」の方が意味を伝え易いのではないか。

○近辻委員：本文についての意見

誤字脱字などの添削。

第2章について、5頁「特に知られているのが谷戸にある坊ヶ谷戸と下保谷地域の荒屋敷である。」は「下保谷の坊ヶ谷戸と谷戸のマツバ池が有名である。」の方がよい。

9頁と10頁には、「馬場恒夫の調査による」と追加した方がよい。

第3章について、47頁の題目成就塔の刻文説明に、「石塔施主 本願人 蓮見清左エ門」と、「発起人 同苗清蔵」を加えるとよい。

○都築委員：(1) 天神社報告書全体についての意見

鏝絵の発見は大きな成果です。

(2) 本文についての意見

第4章については、天神社の位置、古い道、石造物、高札場や、もう少し下保谷の歴史について触れたほうがよい。

○廣瀬委員：(1) 天神社報告書全体についての意見

方針を決めて、さらに編集主任を決めて、レイアウトと、内容の精査などについて細かい指示を出して進めればよかった。

(2) 表紙についての意見

表紙のデザインはもう少し工夫の余地がある。文字を書くのもよい。

(3) 本文についての意見

① 天神社境内の詳細な地図の作図（建物・石碑の位置や植栽を記入）について、これは専門家に依頼していただきたい。

② 掲載する石碑の写真の撮影などは、誰が撮影するのかなど決めておくとうい。

2 報告事項

(1) 下野谷遺跡の保存・活用について

(2) 下野谷遺跡の整備について

(3) 文化財事業実施報告

○鈴木会長：(1) 下野谷遺跡の保存・活用について

完成後の活用が計画されるなら、今後報告してほしい。

(2) 下野谷遺跡の整備について

A区、B区を一体にした計画図が作られるなら、今後報告してほしい。

○石井委員：下野谷遺跡の保存・活用及び下野谷遺跡の整備についての意見

新型コロナウイルス感染症はワクチンの普及によってかなり落ち着くと思われていますが、感染症は今後も繰り返し起こります。下野谷遺跡についても、遺跡の整備を基本としながらも、この機会に、新たな催し物のあり方の模索、バーチャルなガイドを進めてきたことのさらなる進展、地元の住民や商店街との一層の連携、といったソフト面での対策が必要でしょう。

○多々良委員：報告事項全体についての意見

エネルギッシュな活動をされていることに改めて感謝いたします。私はいつも市民がどう思いどう考えるかという視点で参加しています。専門家が専門家の権威や発信力に振られやすいということに留意していくことが大切かと思っています。

○近辻委員：下野谷遺跡の整備についての意見

今回、答申された土地がどこか判り易い資料にしてほしい。

○長崎委員：下野谷遺跡の保存・活用及び下野谷遺跡の整備についての意見

追加指定、史跡整備など大きな事業が続くが、人的整備も視野に、確実に文化財の保存活用を行うことを期待する。

○廣瀬委員：報告事項全体についての意見

コロナ禍で大変な一年でした。3密を避け、出来る範囲でしかできません。いろいろと本市の文化発展のためにご尽力いただきありがとうございました。感謝申し上げます。